

会員温泉地の紹介

阿寒湖温泉

阿寒湖や特別天然記念物の「まりも」に代表される阿寒国立公園の豊かな自然やアイヌ文化、そして豊富な天然温泉を有する、北海道を代表する観光・宿泊拠点である。

2000年に住民参加を特徴とするまちづくりを開始。現在も『阿寒湖温泉・創生計画2020』に基づき、長期滞在できる温泉地を目指して、ホテル・旅館、土産品店、飲食店、住民など、地域が一体となった取り組みを展開中である。



有馬温泉

六甲山の北部に位置し、1300年の歴史と伝統を誇る日本最古の温泉地の一つ。時の為政者や文人墨客など、多くの歴史上の人物に愛されてきた。

1995年の阪神・淡路大震災を契機に、温泉街の魅力を高めて誘客を図ろうと、ハード・ソフトの両面で数多くの事業を次々と展開してきた。2013年度からは、若手・中堅が中心となり策定した『有馬温泉まちづくり基本計画』に基づき、「世界に誇れる温泉地」を目指した取り組みが行われている。



道後温泉

日本書紀にも登場する我が国最古の温泉の一つ。1894年に建築された道後温泉本館は、数度の増改築を繰り返しながらも建築当時の姿をとどめ、現在も多くの方に利用されている。2014年には、改築120周年を記念して、温泉と現代アートが融合した「道後オンセナート」を開催。現在は、『歴史漂う景観まちづくり宣言・道後百年の“景”』に基づき、民間団体が主導して、美しく魅力的でかつ都市型温泉郷空間の実現を目指した取り組みが進展中である。



草津温泉

草津白根山、本白根山など、上信越高原国立公園の豊かな自然と自噴湧量日本一の温泉に恵まれ、日本三名泉の一つにも数えられる温泉地である。

2001年には「泉質主義」を宣言し、草津ブランドの確立に努めてきた他、「歩きたくなる観光地づくり」に積極的に取り組んできた。最近では、景観に配慮した魅力あるまちづくりを行政、民間企業、住民が一体となって進めている。

鳥羽温泉郷

伊勢志摩国立公園内随一の宿泊拠点であり、4つの有人離島や自然景観、漁村集落や日本一の人数を誇る海女、海の幸、ミキモト真珠島や鳥羽水族館などを有し、三重県観光をリードしてきた。

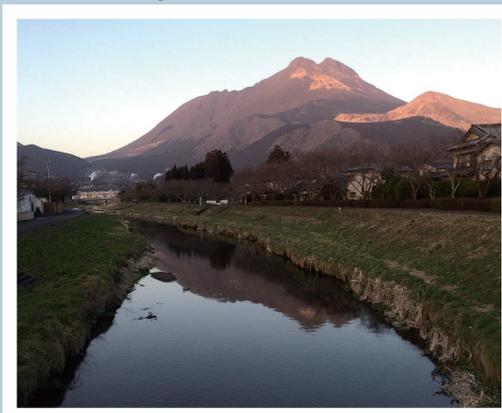
現在は、「第二次鳥羽市観光基本計画」に基づき官民一体となった戦略的な観光地づくりを目指している。入湯税の基金化や観光を支える漁業との連携（漁観連携）など興味深い取り組みがなされている。



黒川温泉

阿蘇北側の閑静な山あいに位置し、心安らぐ自然と日本のふるさとも感じさせる街並み、各宿が趣向を凝らした露天風呂が特徴的な温泉地である。

「黒川温泉一旅館」を合言葉に、一致団結して温泉地の景観づくりと環境保護に取り組んできた。「入湯手形」での露天風呂巡りは、多くの温泉地の手本となった取り組みの一つである。現在、30～40代（黒川温泉第3世代）が中心となり、まちづくりに取り組んでいる。



由布院温泉

由布岳に抱かれた由布院盆地内に位置し、全国第2位の源泉数と全国第3位の温泉湧出量を誇る温泉地である。由布院温泉は、長きにわたり、「最も住みよい町こそ優れた観光地である」との認識のもと、滞在型保養温泉地を目指して、出会いや交流の場としての観光まちづくりを、民間主導で実践してきた。由布院のまちづくりに共感して訪れるファンも多い。

現在は、行政と効果的に連携し、より質の高い環境の創出に向けた動きが活発になっている。

各ステージで扱ったテーマ

ステージ
1

2008
～
2010
年度

組織運営

① 安定的な観光まちづくり財源

提言内容

1. 目的税である「入湯税」の用途について、市町村に情報公開を求める
2. 入湯税の地元還元を意識し、「観光まちづくり」への配分を高めるよう要望する
3. 現在の入湯税をかさ上げし、その新たな収収部分を「観光まちづくり」に活用する

【有馬温泉】2009年6月

研究会と合わせて開催された「観光みらい創造フォーラムin有馬」では、「温泉地のまちづくり財源」と「日本の温泉地活性化」について議論

【阿寒湖温泉】2010年6月

研究会と合わせて開催された「温泉まちづくりフォーラム」では、「観光まちづくり推進組織とその財源」について議論



有馬でのフォーラムに研究会メンバーが参加



阿寒湖温泉での千本タイマツ体験

② 指定管理者と観光まちづくり組織

【提言内容】

■観光まちづくり組織による指定管理者の申請並びに業務遂行に関する提言
(指定までの留意点)

1. 組織目的と指定管理者業務との整合性を確認する
2. 指定管理者になるための能力が組織にあるのかどうかを確認する
3. 指定管理者になるメリット・デメリットを理解する
4. 申請にあたっては、他組織との連携も検討する

(指定管理者に指定された後の留意点)

1. 行政、前管理者、関係機関とのコミュニケーション
2. 利用者の目線での管理運営

■温泉地として取り組むこと

1. 申請に際しての慎重な検討
2. 委託者である行政とのコミュニケーション

空間環境

③ 歩いて楽しめる温泉地 ～カーフリーリゾート

【提言内容】

■できることから柔軟に、そして取り組みを継続する

1. 地域としての取り組み方針・目指す姿を明確にする
2. 地域内の合意形成を図る
3. スムーズな合意形成に向けて様々な切り口で検討する
4. 来訪者へのサービス向上につながる取り組みと連動させる
5. 美しいまちなみづくりや食の魅力づくりとタイアップする

④ 電線・電柱の地中化／⑤ 社会基盤整備と都市計画的事業手法の導入

社会資本整備に関して講演(観光庁)と観光まちづくりの取組について報告(UR都市機構)をもとに議論

温泉地全体としての取り組み

⑥ 食の魅力づくり

【提言内容】

■温泉地が一体となって食の魅力づくりに取り組む

■地域らしい食の魅力効果を効果的に発信する

1. 地域の「食」をとりまく実態を把握する
2. 「おいしい料理」とは何かを徹底的に考える
3. 「地元の食材」を「地元ならではの方法」で効果的に活用する
4. 地域が一体となって食の魅力づくりを考える
5. 地域とジャンルを超えた連携体制を構築する

【鳥羽温泉郷】2010年1月

市場流通だけに依存しない漁協直営による水産物の消費拡大を柱として、地元から好評を得ている鳥羽磯部漁業協同組合の直営食堂「四季の海鮮 魚々味」の取組について学び議論

⑦ 温泉地における環境経営

【提言内容】

1. 環境負荷低減の効果を、消費者、観光事業者、温泉地別に明確化し、関係者間で共有！
2. 経営面での経費削減と環境負荷の低減を両立させるスマート・オペレーションの実現！
— エネルギー・水・廃棄物消費量の定期的な測定により“効果を見える化”しながら、経営改善！
— 設備投資よりも、施設や地域の特性に合った現実的な環境改善を重視！
3. 多様な関係者の活動の上に、温泉地ぐるみで環境負荷の少ない観光地づくりを推進！

その他：顧客満足度調査(CS調査)による温泉地比較

来訪者の属性や旅行の形態を把握するとともに、温泉地の満足度や再来訪意向を把握し、温泉地の満足度向上やリピーターの増加につなげるために実施

来訪理由

回答群	阿寒湖	草津	鳥羽	有馬	由布院
温泉の魅力	36.1%	86.6%	14.9%	70.8%	47.9%
温泉施設の魅力	20.0%	40.1%	16.3%	19.0%	24.1%
温泉街の魅力	17.8%	39.6%	3.5%	20.0%	44.9%
宿泊施設の魅力	40.7%	28.5%	56.9%	42.9%	56.5%
食事の魅力	18.3%	12.9%	54.5%	24.7%	34.7%
買ひ物の魅力	7.3%	5.2%	5.9%	4.9%	13.4%
観光施設・体験プログラムの魅力	11.1%	4.9%	8.4%	1.7%	3.2%
温泉街の周囲の自然環境	39.1%	23.5%	10.4%	15.7%	35.7%
イベントや祭りの魅力	7.3%	2.9%	2.5%	1.0%	0.9%
自宅からのアクセスが便利	10.5%	11.8%	19.3%	45.1%	7.9%
イメージの良さ、話題性	12.9%	18.0%	13.9%	18.1%	36.3%
周辺の観光地の魅力	26.7%	9.5%	27.2%	7.5%	8.2%
以前に比べてよかった	27.0%	27.6%	18.8%	27.6%	25.3%
同行者の希望	11.1%	12.2%	8.4%	15.5%	17.0%
その他	12.1%	7.4%	6.4%	6.2%	3.8%

出典：「温泉まちづくりの課題と解決策～提言集～」2011年5月 温泉まちづくり研究会

ステージ
2

2011
～
2012
年度

① 震災以降の消費者の価値観変化への対応

消費者の価値観変化に温泉地や旅館はどのように対応すべきかについて議論

② 温泉地・旅館の長期滞在への対応

消費者アンケート調査や数多くの事例をもとに議論

結論：長期滞在は施設の機能やプログラムの充実以上に「素敵な時間の過ごし方」を提案する必要がある

③ 場としての旅館、行為としての旅館、表現としての旅館

【板室温泉】(那須塩原市) 2012年2月

アートの精神で取り組む旅館経営(アートスタイル経営)について学び、議論

結論：従業員が行う瞬間瞬間の行為もアートとして捉え、その集合体が旅館であると考え、旅館全体で“表現”していくことが大切である



会員温泉地以外でも開催

④ “第2次おひとりさまブーム”に温泉地・旅館はどう対応するか

“おひとりさまを取り巻く現状”と“おひとりさま対応のヒント”を紹介、議論

⑤ 温泉を離れて考える、温泉地の観光的魅力

観光地の“新しい魅力”づくりとしての『まち歩き』の事例を紹介、議論

⑥ ビッグ放談から勝手に学ぶ

温泉地の未来？知ったことか!!考えるのはお前たちだ!

【由布院温泉】2013年3月

日本を代表する温泉旅館の経営者に、その生き方、まちづくりの哲学を学び、今後の温泉地・旅館の価値、あり方について議論



上口昌徳氏(山中温泉:左)と中谷健太郎氏(由布院温泉:右)

ステージ
3

2013
～
2015
年度

① 入湯税その後～観光まちづくり財源として

ステージ1で扱った「観光まちづくり財源」に関して、その後の研究の蓄積を活かして、観光まちづくり財源としての入湯税の可能性について議論

② 温泉街の景観とまちづくりを考える

一湯畑周辺と街並み景観の整備

【草津温泉】2013年11月

温泉街における景観とまちづくりについて、「湯畑」周辺をはじめ街並み景観の整備が進む草津温泉で、黒岩信忠草津町長ほか多くの関係者から学び議論



講師による草津温泉まちあるき

③ 温泉地での「滞在プログラム」を考える

長野県飯山市の取組などから、温泉地における滞在プログラムの必要性、滞在プログラム作成の考え方、実際の提供・運用に際しての留意点などについて学び議論

④ 海外の魅力的なリゾートに学ぶ(ドイツ・スイス)

IR(統合リゾート)と山岳リゾートの現状、取組みを学ぶとともに、ドイツのクアオルト(療養地)の要点や海外温泉地の最新動向についても学び議論

⑤ 現代アートを起爆剤に温泉地を活性化!?

～道後温泉のまちづくりに学ぶ

【道後温泉】2014年10月

道後温泉及び「道後オンセナート(DOGO ONSENART)2014」の取組から、本館に頼らない温泉地に変えていこうとする、道後温泉のまちづくりの考え方や姿勢などについて学び、地域活性化とアートの関係についても議論(※)道後温泉本館が改築120周年を迎えるのを機に行われたアートフェスティバル



道後温泉本館での研究会開催

⑥ 改めて、インバウンドについて考える

わが国の「インバウンド観光促進に向けた最近の動向」と「インバウンド・マーケットの最新動向」を踏まえた上で、会員温泉地の現状について情報共有を行い、受け入れの際の留意点などについて、意見交換

⑦ 黒川温泉の魅力の根源にせまる

～黒川の「ふるさとらしさ」はどこから生まれるのか～

【黒川温泉】2015年7月

“黒川温泉らしさ”とは何か、現在、何が課題なのか、生かすべき芽は何か、それをどう生かしていけば良いかなどについて参加者同士で議論



黒川温泉べっちゃん館での交流会～手作りによるもてなし

⑧ 温泉地と災害を考える／火山と向き合う温泉地の現場から

火山活動の現状及び火山と向き合う温泉地一箱根町と草津町事例を通じて、火山災害に向き合う現場の取組などについて学び、その上で、観光客を含めた現場での対応を予め考えておく必要性や事前に確認しておくべき事項など、望ましい対応策について議論

⑨ 温泉地の雇用と人材

草津温泉を例に温泉地における雇用の現状と課題、そして、旅館と人材を結ぶ専門求人サイトの視点から、また、長年旅館業界を見つめてきた雑誌編集者の視点から旅館業における雇用の現状と課題を学んだ上で、これからの温泉地の雇用・人材に関する課題と対応策について議論

ステージ
4

2016
～
年度

① これまでの総括と第4ステージの方向性

9年目を迎える第4ステージにおいて、今後3年間でどのように進めていくかなどを議論

② 温泉地と国際 MICE

～伊勢志摩サミットを例にして

【鳥羽温泉郷】2016年10月

鳥羽の観光まちづくりとして、地元産水産物の域内調達率調査やブランド化、体験プログラムの造成など、漁業と観光の連携について学ぶとともに、5月に開催された伊勢志摩サミットにちなみ、「温泉まちづくりサミットin鳥羽温泉郷」として、国際的なMICEを開催した際の経験や課題を共有し議論



鳥羽温泉郷での温泉まちづくりサミット

③ 温泉地の観光推進組織(DMO)の課題・方向性について

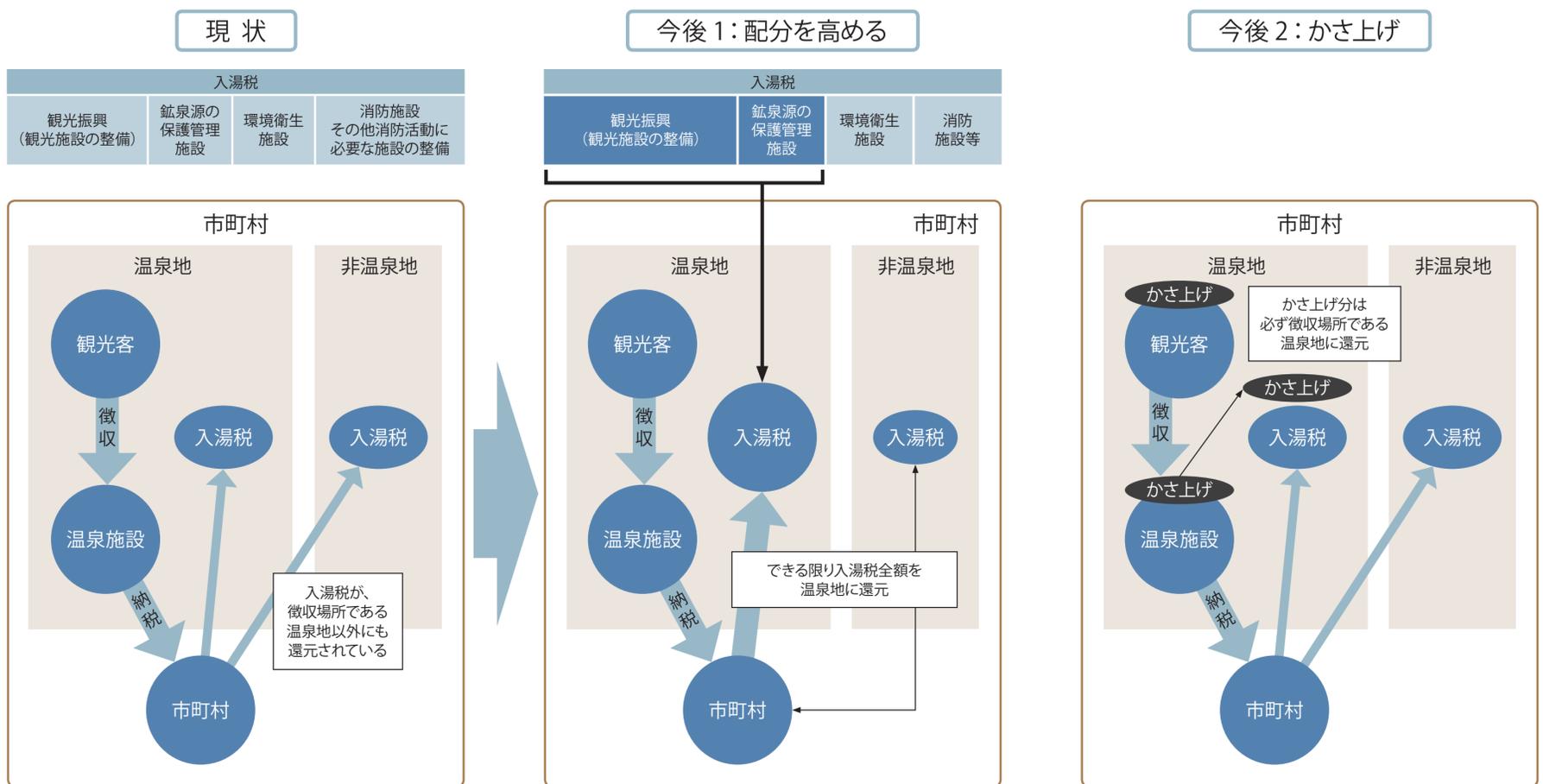
DMOという概念が登場した背景や海外の事例紹介など、基本的な概要を改めて学びつつ、DMOの形成に向けた施策展開の課題について、各会員温泉地の取り組みについての情報交換も交えながら議論

温泉まちづくり研究会の活動成果（一部）



入湯税の有効活用 ～温泉地の観光まちづくりの安定的財源に！

1. 目的税である「入湯税」の用途について、市町村に情報公開を求める
2. 入湯税の地元還元を意識し「観光まちづくり」への配分を高めるよう要望する
3. 現在の入湯税をかさ上げし、その新たな税収部分を「観光まちづくり」に活用する



温泉まちづくり研究会

- 2013年度 第1回研究会にて再度入湯税について議論「入湯税その後～観光まちづくり財源として」
- 以降の研究会で、阿寒湖温泉（釧路市）の状況を情報共有。

公益財団法人日本交通公社

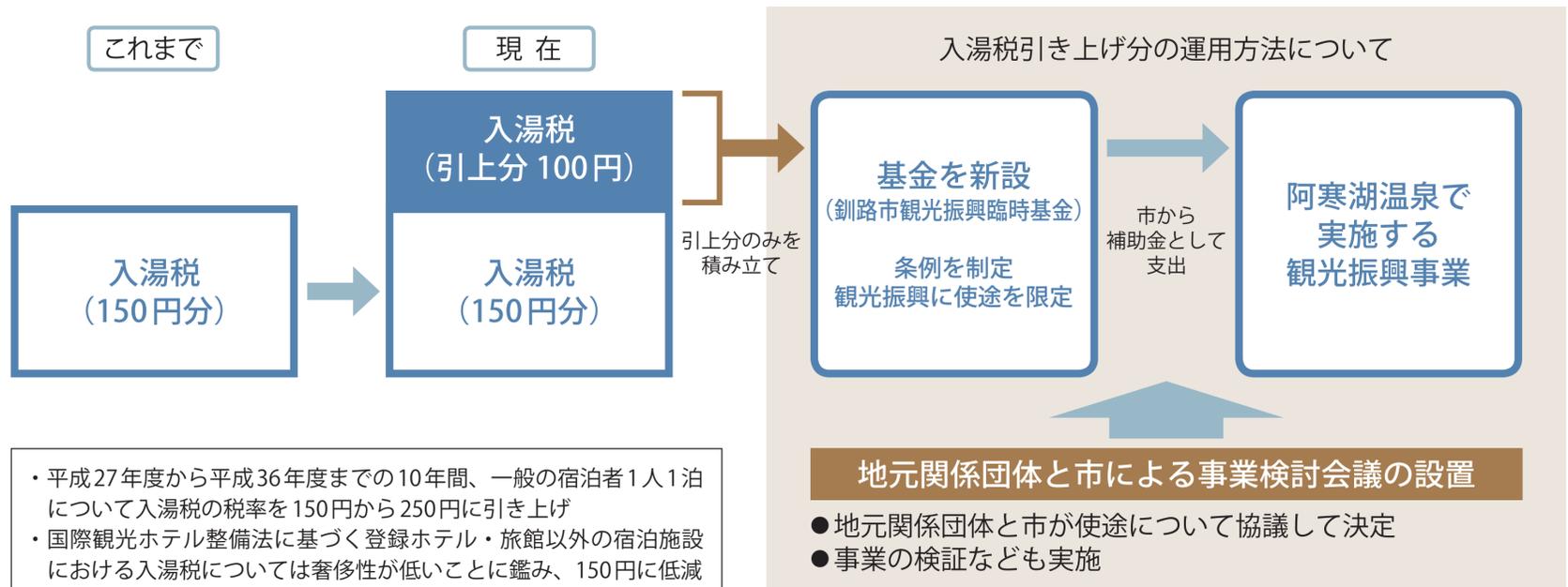
- 2013年度に自主研究「観光まちづくり財源に関する研究－入湯税を中心として」（NPO法人阿寒観光協会まちづくり推進機構との共同研究）

阿寒湖温泉

[検討から導入までの経過]

- 阿寒町時代「新しい地方税のあり方研究会」による新税の検討（平成14年5～11月）
 - ・ 町において、入湯税のかさ上げを目指すも、地域全体の合意が得られず、実現できなかった。
 - ・ 釧路市誕生（平成17年10月11日）－旧釧路市、旧阿寒町、旧音別町の合併
- 入湯税かさ上げ議論の再論、独自財源研究会の設立・開催（平成25～26年）
- 市へ要望書提出（平成25年11月26日）
- 行政における入湯税の検討（平成25年12月～平成26年10月）
- 釧路市税条例の改正案提案（平成26年12月）

阿寒湖温泉のある釧路市にて、平成27年4月より、超過課税を導入！
入湯税の税率を150円から250円に引き上げ！



- ・ 平成27年度から平成36年度までの10年間、一般の宿泊者1人1泊について入湯税の税率を150円から250円に引き上げ
- ・ 国際観光ホテル整備法に基づく登録ホテル・旅館以外の宿泊施設における入湯税については奢侈性が低いことに鑑み、150円に低減